

SOLAN Dream Climbers

～夢に向かって一歩ずつ～

十五少年漂流記の世界を作ろう プロジェクトの進捗

4年生は、今年度最後のプロジェクトとして「十五少年漂流記」を題材にした演劇に挑戦しています。1組と2組でそれぞれの演劇に挑戦中です。なかなか学年通信にあげることができなかつたので、これまでの1月～現在の進捗をダイジェストでお届けします！

このプロジェクトの目的は、物語を問 いて持って読み深め、それぞれが感じたことや解釈を、演劇という形で表現することです。もともと演劇が好きな子が多い学年ですが、ただ演じるだけでなく、脚本作りや演出、道具や照明、音響など、さまざまな方法で表現する工夫を高めることもねらいの一つです。さらに、学年の最後に、みんなで一つの作品を練り上げ、協力して作り上げる経験や達成感を味わってほしいという思いも込めました。



まず、演劇を作る上でどのようにしたらできるのか調べ学習をしました。すると、「脚本って何?」「え、演じるだけじゃなくて舞台裏にもこんなに役割があるのか」と新しいことを知り、おどろきました。そこから本番までの計画をクラスごとに作り、物語の読み深めに入っていました。

ブッククラブという手法を使い、それぞれの解釈をグループで話し合うことで、物語を深く読み込みました。このブッククラブでは、ただ本を読み意見を伝え合うだけでなく、登場人物の気持ちや物語のテーマについて話し合い、相手の意見を受け入れる対話を大切にしました。自分とは異なる視点に触れることで、新しいコミュニケーションの形を学ぶ機会にもなりました。



物語の理解が深まった後は、脚本作りに取り組みました。どんな場面を描くのか、中心となるテーマをどう伝えるかを話し合いながら決めていきました。そして、役のオーディションを行い、それぞれが全力で演技に挑みました。お互いの演技を見て刺激を受け、「こうすればもっとよくなるのでは？」と意見を交わしながら、より良い劇にするための工夫を重ねています。

役が決まった後は、演技だけでなく、音響・照明・道具・監督などの役割に分かれ、子どもたちは物語の世界をどう表現するか試行錯誤しています。それぞれの立場で工夫を凝らしながら、少しずつ演劇が形になり、子どもたちの気持ちもかなり高まってきているようです。





そしていよいよ来週が本番です。
5・6年生の前で発表する予定で、子どもたちは最後の仕上げに向けて懸命に取り組んでいます。本番に向けて、引き続き全力でサポートしていきます！

